

編集後記

平成最終号の編集後記を担当させていただき、栄誉に浴し、責任を感じるとともに多少の感慨を覚えます。

さて、本号が皆様のお手元に届く頃には、既に新元号は発表されましたが、果たしてどのような印象を持たれたでしょうか。本稿執筆中から、巷ではあれこれ新元号についての予想がされていました。「安」の一字が入るとか、頭文字は「K」だとか、また具体的にいくつかの新元号の候補がまことしやかに言われていました。事前に話題になったものは採用しない原則から、新元号はおそらく、はじめて耳にする新鮮なひびきを持ったことでしょう。

誌上ギャラリーには宇根先生から沖縄県の「勝連城跡」をお寄せいただきました。静かにたたずむ荘厳な城塞からは、かつての王国の栄華が偲べれます。

「論説と話題」では1月に熊本で行われた「第55回九州首市医師会連絡協議会」での各種会議・講演について報告されました。また2月に行われた「鹿児島市医師会代議員懇談会」では医師会病院の経営健全化に向けて再設置された、あり方委員会の活動報告と、2019年度の運営方針案についてご報告いただきました。

「医療トピックス」は抗インフルエンザ薬についての「くすり一口メモ」です。昨年3月に発売されたゾフルーザ®も含めた5種類の抗インフルエンザ薬について、それぞれの特徴と使い分けを中木原先生に解説していただきました。

「学術」には今村総合病院血液内科の田淵先生から、完全寛解が得られた高齢の難治性急性骨髄性白血病の症例をご報告いただきました。従来の化学療法への抵抗性が強く、感染症を繰り返して厳しい予後が懸念されていたにもかかわらず、新規分子標的治療薬が著効して無事に退院されました。

「医師会病院だより」には、外科部長の石崎先生に外科についてご紹介いただきました。従来、開腹のみで行われていた肝切除と脾体尾部切除にも鏡視下補助が導入され、消化器外科手術のほぼ全範囲が次第に鏡視下手術の適応になりつつあるようです。また急患にも可能なかぎり対応して下さるということですので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

「随筆・その他」には古庄先生からイギリスの探検家、ウォルター・ローリーの探検隊のジャージー島での活動を描いた切手をご紹介いただきました。毎号、めずらしい切手をご提示いただき、ありがとうございます。

「リレー随筆」には鹿児島大学病院 血液・膠原病内科の市来先生から、「趣味を見つけないクラブ」と題してお寄せいただきました。ご自身が規定された4条件をクリアする趣味を、わずか1年半の間に4種類も実践された行動力には、ぜひ見習いたいものと敬服いたしました。

「各種部会だより」では鹿児島市内科医会例会、学校医会幼稚園・保育園部会研修会、女性医師部会、学校医会総会、勤務医会の研修会の様子などが報告されました。

「鹿市医郷壇」では会員のみなさまのユニークな作品を募集しております。奮ってご投句して下さいますようお願いいたします。

このところ、メディアでは盛んに平成史を振り返っています。この30年間、確かに世の中は大きく変わり、一つの時代が終わろうとしています。そして今月末、空前の10連休に突入し、来月からは「令和元年」が始まります。来たる新時代がどのようなものであるにしろ、ただただ平和な世の中が続くことを願うばかりです。

(編集委員 森岡 康祐)